

## グアテマラ内政・外交(2008年7月)

平成20年8月

在グアテマラ日本国大使館

### 1. 概要

(1)7月初旬に実施された世論調査では、コロン大統領の政権運営について、30.1%が「可」と評価したのに対して、68.5%が「不可」とするなど、原油や穀物の国際相場高騰等、経済面での「逆風」も加わる中で、発足後半年を迎えたコロン政権にとって厳しい結果が示された。国内の有識者の間でも、コロン大統領は一時凌ぎの政策を実施しているに過ぎないであるとか、半年で4人の閣僚が交替する異例の事態に際し、現政権内には大統領の掲げる政策を実現するオペレータ的存在がいなかったといった辛辣な批評がなされた。日頃から批判の矢面に立たされていたコロン大統領は、前政権こそが「グアテマラ史上で最悪の政府」であったと発言し、これが経済界他、各方面で物議を醸す場面も見られた。

(2)外交面では、コロン大統領がベネズエラを訪問し、ペトロカリブ・エネルギー協定に署名したことに関し、同協定の今後の国会承認審議、有利な条件での石油製品購入によりもたらされる効果等について連日活発な報道がなされた。

### 2. 内政

#### (1)世論調査

14日付当地紙プレンサ・リブレは、5～10日にコロン大統領の政権運営他に関する世論調査を実施(Vox Latina 社委託、対象:全国各地の18歳以上の男女1,200人)。「コロン政権発足から6ヶ月を経て、グアテマラの状況は良くなったか、悪くなったか」との問いに対して、81.8%が「悪くなった」と回答(「良くなった」:14.9%、わからない/無回答:3.3%)。また、「コロン大統領の政権運営」については、回答者の68.5%が「不可」、30.1%が「可」と評価(わからない/無回答1.4%)するなど、本年1月に発足したコロン政権にとって厳しい結果が示された。

#### (2)政権発足6ヶ月のコロン政権に対する見方

当地主要各紙は、7月中旬、発足から6ヶ月を経たコロン政権に対する各方面からの評価を掲載。フェルナンド・ソリス氏(社会学者)は、政権発足後目ぼしい実績が少ない中、社会連帯審議会による社会政策の推進・アピールが際だつたが、それらの実施効果は一時凌ぎに過ぎず、貧困等の諸問題の根源は手つかずのままであると述べた。また、アルバロ・ポップ氏(政治学者)は、コロン大統領の姿勢や意図は評価できると述べた一方で、それを実施に移すオペレータ的存在を欠き、更に国会では、与党UNEが内部分裂しているかのような印象を与えていると指摘するなど、国内有識者の見方は概して批判的なものが多かった。

### (3) コロン大統領の前政権に関する発言を巡る騒動

18 日、コロン大統領はEFE通信他の取材に応える形で、「前政権はグアテマラ史上最悪の政府であった。ベルシェ前大統領は、企業家にべったりの政権運営を行ったため、公には激しく批判されることはなかったが、我々の政府は誰からも拘束されることがない一方で、マスコミの批判の矢面に立たされる。」と述べ、経済界及びマスコミからの日頃の批判に不満を露わにした。同発言に対しては、その後、工業会議所会頭が「馬鹿げた発言である。国内の経済界を愚弄するものでもある。」と述べ、強い不快感を示したため、後日、コロン大統領は、同発言は社会政策が不十分で多くの貧困層が忘れ去られていたことを指摘したものであるとし、真意が伝わらなかった部分について釈明を行った。

### (4) 閣僚等交替人事

#### (イ) 内務大臣及び同次官の交替

ゴメス前内務大臣及びエルナンデス前内務次官の事故死(6月27日)を受けて、2日、コロン大統領は、新内務大臣としてフランシスコ・ヒメネス国家文民情報局(DIGICI)局長を、新内務次官としてエミリオ・ビジャクラン氏(政治・治安コンサルタント)を任命した。コロン大統領は、グアテマラの治安情勢は引き続き深刻であるが、政府は今後とも具体的な成果を挙げるべく尽力していくと述べた。

#### (ロ) 農牧食糧大臣の辞任、新大臣の任命

コロン大統領は、政策実施体制の強化をはかるべく、政権発足後6ヶ月の各省庁の予算執行率や政策実施状況検討の一環としての各大臣・長官のパフォーマンス評価に際して、16 日、ロブレス農牧食糧大臣の辞任申し出を受け入れた旨明らかにした。後任には、フリオ・レシノス・サラス氏(元全国農業協同組合代表)が任命され、同日就任した。ロブレス前農牧食糧大臣については、同省の予算執行率の低さや、基礎的穀物増産に向けた取り組みの遅延等、政策実施能力の不足が指摘されてきた。

#### (ハ) 厚生大臣の辞任、新大臣の任命

ロブレス農牧食糧大臣と同様、辞意を表明していたデル・シド厚生大臣についても、16 日、コロン大統領はこれを受け入れ、後任の大臣に医師資格を持つセルソ・セレス厚生次官(元社会保険庁長官)を登用。同新大臣は同日就任した。厚生省については、確たる方向性の欠如や実施能力の不足が指摘されており、エイズ対策や母子保健等、様々な分野でプログラムの遅延が発生するなど、担当大臣や次官等、省内幹部間の連携不足も噂されてきた。

### (二) 検事総長の交替

29 日、コロン大統領は、フロリド検事総長の辞任を受け入れた旨明らかにし、後任にホセ・ベラスケス首都圏担当検事を任命した(就任は 31 日)。辞任の理由は個人的なものとされ、明らかにさ

れていないが、2004 年2月以降同職にあったフロリダ検事総長に対しては、治安が一向に改善されない中で捜査指揮能力等の不足が人権団体等から指摘され、かねてより風当たりが強かった。

#### (5) 治安関係

##### (イ)「グアテマラにおける無処罰問題対策委員会(CICIG)」代表の発言

28 日、カストレサーナCICIG代表は、シグロ21紙のインタビューの中で、CICIG発足半年を経ての感想として、当国の治安問題について、「国家文民警察(PNC)、検察庁(MP)、及び裁判所の3機関の間の連携が図られていないことを強く憂慮している。特に警察と検察は意図的に互いの捜査の妨げとなるようなことをしており、結果としてCICIGの捜査協力の効果に深刻な影響を与えている。」と述べ、当国での治安への取り組みに懸念を示した。なお、CICIGはこれまでに警察、検察、及び裁判所にそれぞれ組織犯罪に絡んでいると見られる内部関係者のリストを提出したと言われている。

##### (ロ)警察官に対する苦情・告発件数の公表

30 日、国家文民警察(PNC)監査局は、本年1月から6月までの間に、現職警官の不正等に関して 650 件の苦情が寄せられた旨明らかにした。主な事案は恐喝、交通違反の不正処理、賄賂の要求、暴力、強盗、酒酔い勤務など。これに関し、同監査局は、不良警官の実態の解明と規律の徹底に向けた取り組みに尽力していると述べるにとどまった。

#### (6) 国会関係：国会議長の元秘書らによる公金不正投資事件

6月に発覚した国会議長の元秘書らによる約 82.8 百万ケツアルの公金不正投資事件をきっかけに、休職を余儀なくされたメイエル国会議長に対しては、7月、最高裁判所判事が、野党愛国党(PP)より提出された議員特権剥奪請求に関する調査を継続した。21 日、任意での事情聴取に応じたメイエル議長は、本件不正投資は、資金を運用した証券会社MDF社が、同議長の署名のない指示書に異議も唱えずに処理を進めたことにそもそもの問題があると述べ、自らに責任がないことを強調した。なお、国会は5月16日より休会中で、委員会審議及び数日間の臨時会が開かれたのみであったが、ラウル・ヒロンMDF社代表に対しては 31 日の臨時会の席上、投資された資金の早期回収が要請された。

#### (7) ペテン県総合開発構想"Cuatro Balam(クアトロ・バラム)"の発表

16 日、コロン大統領は、ペテン県のマヤ遺跡群と豊かな自然を活用した同県総合開発構想"Cuatro Balam "を発表。同大統領は、同構想は観光分野を軸としたラ米で最大規模の総合開発であるとし、その重要性を強調しつつ経済界、市民団体、主要ドナー国等に対して協力を呼びかけた。同構想のマスター・プランは未策定ながら、大統領府はティカル、エル・ミラドールといったペテン県の観光拠点を軸とする総面積 22,500 平方 Km に及ぶ範囲について、「保存」と「開発」

のバランスを重視し、地域の持続的開発を目的として、2023 年完成を目標に、遺跡の修復・保存、ホテルや空港等のインフラ整備等を行うとしている。

### 3. 外交

#### (1) コロン大統領のベネズエラ訪問：ペトロカリブ協定の署名

13 日、ペトロカリブ協定加盟国首脳会合出席のためベネズエラ訪問中(11～13 日)のコロン大統領は、同国との間でペトロカリブ協定に署名した。同協定が国会承認を経て発効すれば、グアテマラは、ベネズエラ石油公社(PDVSA)から、ディーゼル燃料とバンカー合わせて2万バレル/日を延べ払い等による有利な条件で購入することが可能となる。なお、コロン大統領は、同協定を通じた石油製品の購入により捻出できる資金を使って貧困対策、教育・保健分野の改善を目的とするプロジェクトの実施が可能となると述べた一方で、同協定締結によるグアテマラの対ベネズエラ外交及び対米外交への今後の影響については、改めてその可能性を否定した。当国がペトロカリブ協定加盟に至った場合、中米統合機構(SICA)諸国ではニカラグア、ホンジュラス、ドミニカ共和国に次ぐ4ヶ国目の加盟となる。

#### (2) エスパルダ副大統領の外遊

##### (イ) ニカラグア訪問：サンディニスタ革命29周年記念式典への出席

19～20 日、ニカラグアを訪問したエスパルダ副大統領は、19 日、マナグア市内で開催されたサンディニスタ革命29周年記念式典にチャベス・ベネズエラ大統領、セラヤ・ホンジュラス大統領、ラソ・キューバ国家評議会副議長、ルゴ・パラグアイ次期大統領等と共に参列した。20 日、エスパルダ副大統領は、オルテガ・ニカラグア大統領との会談で地域の経済関係他につき意見交換を行い、「世界的に原油や食糧が高騰する中で、ラ米は結束することで、発言力を増大させなければならない。」と述べた。

##### (ロ) ドミニカ共和国訪問：サントドミンゴ市内の地下鉄の視察

22～23 日、エスパルダ副大統領は、メアニー・エネルギー鉱山大臣及びアレホス公共事業大臣同行のもとドミニカ共和国を訪問し、本年 11 月に開通するサントドミンゴ市内の地下鉄を視察した。ドミニカ共和国政府関係者と意見交換を行ったエスパルダ副大統領は、「グアテマラでも地下鉄ができれば現在の交通渋滞を緩和させることが可能となり、環境にも良い影響を与えるはずである。」と述べ、ドミニカ共和国政府関係者の説明に熱心に耳を傾けた。

#### (3) 第 10 回グアテマラ・メキシコ二国間委員会の開催

12～15 日、第 10 回グアテマラ・メキシコ二国間委員会がグアテマラ(両国間の国境を流れるスチアテ川付近)にて開催された。同会合には、ロダス外相、ヒメネス内相、エスピノサ墨外相、モウリーニョ墨内相の他、両国よりそれぞれ約 100 人強が出席し、政治・経済関係、プエブラ・パナマ計画を受け継ぐメソアメリカ統合発展計画、国境警備、国境付近の植林を通じた流域保全及び地域

開発等につき意見交換を行った。また、エスピノサ墨外相は、メキシコ国内におけるグアテマラ人移民について、人権を尊重して処遇することを改めて約束した。